

2014「神戸の集い」私の感想

2014 年 2 月 1 日

氏名(会員番号)	中島光明 (036)	参加回数	1 回目
参加した場所 (番号に○印)	① 被災の記憶を巡る(東公園-防災公園-港の遺構) ② 神戸市役所・防災展示室(河嶋さんの解説) ③ 松山さん・今石さんとの懇親会 ④ 1. 17 慰霊式典(大震災メモリアルモニュメント) ⑤ 人と防災未来センター 6. その他		
印象に残ったこと	1. 港神戸の経済を担っていた港湾施設が被災したため、港湾業務が代替地に移転した。その後港湾施設が復興しても従前の経済活動が再生することではなく、神戸の実体経済が低迷している現実(神戸市役所から)。 2. 多くの貴重な人命が失われた大災害が起こったことが再認識できる空間であるが、親族に犠牲者がなかったためか切実感沸かなかった。 慰霊に参加されている多くの方々の悲痛な気持ちを思うと、今後「同じ悲しみを味わわないための何か」をしなければと・・・(メモリアルモニュメント)。 3. 知識として持っている災害の恐ろしさも記憶は当然薄らぐものであり、その意識を持ち続ける手法としては「インパクトのある映像」を再現するのが効果的と感じた(人と防災未来センターの多角スクリーン)。		
今回参加した感想	19 年が経過した大震災被災地・神戸においても、災害の記憶が風化してゆくのは、ある意味人間にとって必然的なものであることを実感しました。 起こってしまった事実を受け入れ、それを乗り越えて明日に向って前向きに生きられる人間としての精神的な逞しさを磨かなければならないと思います。 何が起こっても自分は生きぬくという信念を持つこと。		